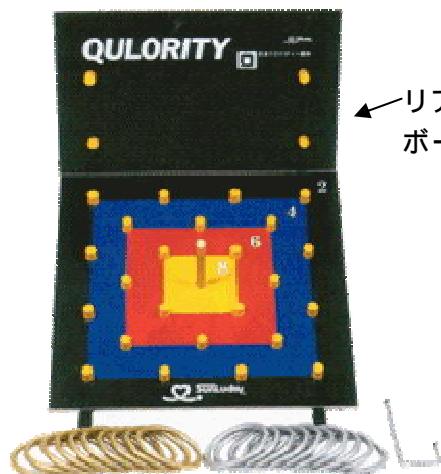


《クロリティー》

・アメリカの「ホースシュー」と日本の伝統的な「輪投げ」をミックスして作られた、最新の輪投げ競技です。

写真



リアクション
ボード



起源

・昭和63年(1988 年)名古屋女子文化短期大学の石川幸生によって考案されたニューコンセプト・スポーツ。ユニバーサルデザインの理念を基に、無理なく安全に誰もが楽しめる、みんなのスポーツである。
・クロリティー(QULORITY)は、輪投げ(Quoits)と活動的(Sporty)を合わせて作られた造語である。

人数

・シングルス(1人対1人)、ダブルス(2人対2人)、ミックスダブルス(男女2人対2人)

場所

・幅91cm×長さ12.5mの平らなレーンが取れば、室内外を問わない。
・レーン;ボードから、3m、5m、7m、9m、の位置にラインを引く。
・ボード;75cm×75cmの正方形、材質は木製、ボードの傾斜角度は60度。

進め方

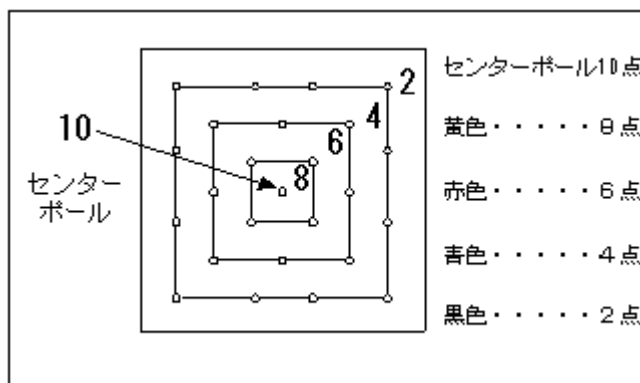
・ジャンケンで投げる順番を決める。
・シングルスは、交互に1投ずつ、各々計10投のリングを片手で投げる。
 *一般;5m、7m、9m、各距離10投×3回=30回(満点300点)
 *子供、高齢者;3m、5m、各距離10投×2回=20回(満点200点)
・ダブルスとミックスダブルスは、先攻、後攻、交互に5投ずつ投げる。
 *一般;5m、7m、9m、各距離10投×3回×2人=60回(満点600点)
 *子供、高齢者;3m、5m、各距離10投×2回×2人=40回(満点400点)
・競技は、3セット、又は1セットマッチプレーで行う。

勝敗の決め方

・各距離3m、5m、7m、9mからボードに向けて投げた後、有効得点を数える。
有効な得点とは、次の場合である。
 ボード上に単独である。
 相手チームのリングの上に3分の1以上重なっている。
 センターポールにかかっている。
 リアクションボードを利用して、ボード上にリングがある。

・点数は、ボード上に色分けされたエリア

のうち、リングが半分以上かかっているエリアの単数で決め、総合形の多いほうが勝ち。



その他

・得点の判定は、プレーヤー立会いのもとに、審判員によって行われる。
・決められた投げる指定位置(ライン)から足を出してはいけない。
・投げたリングが静止するまで、ラインより前に出てはいけない。
・地面に落ちた後、バウンドしてボード上にある場合は、無効である。
・審判の指示に従わないで勝手に投げた場合や、投げる順番を間違えた場合は、反則で無効となる。
・両手でリングを投げた場合、1度に2個以上のリングを投げた場合も反則で無効となる。